ご挨拶

京都大学総合博物館館長　岩崎奈緒子

京都大学総合博物館では、「大学博物館」を学びの場として、学生はもとより、子どもたちや市民・地域の皆さんに広く開く試みを続けてきました。これらの試みで蓄積した経験をさらに広げ深める活動の一環として、当館では、二〇一三年度、二〇一四年度に引き続き、本年度も「海の学び」を軸にした本展覧会「京のイルカと学びのドラマ」を開催する運びとなりました。これら三つの展覧会は、日本財団、船の科学館・海と船の科学館ネットワークのご支援によって実現したものです。

本展覧会のタイトルは、二〇一五年二月の京都府宇治田原町におけるイルカ化石発見にちなみます。発見をきっかけに、当館が提供する京大のゼミ・演習はもとより、京都府・京都市をはじめとする教育現場で、二〇一五年度の学習計画の中に「海の学び」が積極的に取り入れられました。また、各地の博物館・美術館からも資料提供など多くの協力がありました。そして、これら関係者の間に「海の学び」についてのネットワークが自然発生的に生まれ、経験やアイデアを交流しました。

ネットワークには、教育学を専門とする大学院生も参加、学びの深化に大きく貢献しました。その結果、能動的な学びの誕生について、学校現場や大学から個性的な実践報告が多く寄せられました。これら一年間の実践の成果をお伝えするのが本展覧会の目的です。展示では、大学生、そして学校児童・生徒を学ぶ楽しみにいざなった今年のプロジェクトを紹介しますが、来場された一般のお客様に

も学びの楽しさを伝えたく、映像展示などの仕掛けも用意しております。

当館には、文理の広い分野から選りすぐりのスタッフと二六〇万点のすぐれた学術標本資料が存在します。一九九七年の創設以来、標本の維持管理は勿論、研究・教育など、大学博物館の中心的なミッションを果たしつつ、私たちは、私たちの営みを社会のためにどのように活用できるかを真剣に考え、様々に試行錯誤してきました。その成果の一つが、子どもたちに学びの楽しさを伝える活動です。この展覧会が、子どもたちの旺盛な好奇心や探究心を刺激する試みのネットワークのさらなる広がりのきっかけとなること、そして、その広がりが、海や地球、そしてそこに暮らす全ての生命の未来を考えられる心と身体を持った子どもたちを育むきっかけとなることを願います。